蝦夷草紙附録

魯西亜
使節舩
續 下巻

北ノ票

ル 4
327
7

明 ル呂4
冊 327
巻 7

諸家固備之通

筑前国福岡城主五拾弐万石余　松平筑前守人数

白須石見守備ニ在場口

一　三千五百石　中老役　佐藤六左衛門　手人百九十五人

一　三千石知　小野徳八　同　四人

一　同五百石　松本吉郎左衛門　同　十五人

一　同六百石　竹中半助　同　十三人

一　同　三好助左衛門　同　十三人

一　三千五百石　新組　猪川市助　同　八人

一　同五百石　指組　浦上利左衛門　同　八人

一 高弐百石　醫師　二人　手人四人

一 同百石　長田三平　同四人

一 同百石　安部甚兵衛　同四人

一 同百石　高田文太夫　同五人

一 同弐百五十石　伊東嘉兵衛　同九人

足軽百三十人

一 大小船数四十二艘　加子五百四十人

〆惣人数九百六十人

高浜御座場口

一 高千八百石　大頭　竹田九郎太夫　手人二十五人

一 高不知　船頭　吉田清作　手人三人

一 同五百石　者頭　白石権之丞　同八人

一 同三百石　同断　割出文治郎　同八人

一 同不知　野間喜三郎　同四人

一 同不知　飯永貞助　同四人

一 同三百石　津田弥三太夫　同五人

足軽百五人

一 大小船数五十八艘　加子三百五拾人

〆惣人数五百五拾三人

長門山岩御座場口

一　高千五百石　　大塚源太夫　　手人廿八人
一　高千石　　船頭　白水三平　　同三人
一　同二百五拾石　　永野三四郎　　同八人
一　同二百五拾石　　者頭　川端五兵衛　　同八人
一　同千石　　横田勘六　　同三人
一　同千石　　筒役　赤松弥之進　　同三人
一　同千石　　権本浅右衛門　　同三人
一　同五百石　　筒役　久保五左衛門　　同五人
一　大小船数　九十艘　加子二百九十七人
〆人数　五百三人

、播磨御座船ニ
一　高千三百石　　棉橋久左衛門　　手人卅五人
一　同千石　　馬杉兵左衛門　　同十五人
一　同千石　　多田久八　　同五人
一　同船頭　　上杉与吉　　同三人
一　同　　同　細江平左衛門　　同五人
一　同二百石　　筒役　稲留勘兵衛　　同三人
一　同百石　　同　安田彦左衛門　　同三人
一　同百石　　筒役　杉佐八　　同三人
一　同百石　　高井新助　　同三人

一日百五拾石　者頭　西川傳右衛門　手人五人

足軽百九十五人

一大小船数三拾三艘　加子弐百六十五人

乄水主人数六百四十六人

一高三拾三万八千九百四拾石　家老　黒田源左衛門　手勢五百弐拾六人

阿保　祐筆　三人　手人十二人

船頭三人　日用四人

足軽二拾人

一大小船数拾八艘　加子三百九十五人

一高六千九百五十六石　中老　吉田六郎太夫　手人二百十八人

阿保　祐筆四人　手人八人

船頭三人　手人四人

一大小船八艘　加子百拾人

乄船数十四艘人数五百五人

一水浦下廻足軽　足軽九十六人

人数〆二百十二人

惣人数四千四百二拾五人

船数百四拾四艘

黒田甲斐守座乗越前役目ニ付先ニ相見へ中小役人

一高四千五百石　用人　毛利五右衛門　手人七十八人

阿保之足軽九十五人

一 三千八百石　大目付　松山文左衛門　手人弐十六人
　附役六人
一 三千百石　表御内役兼帯　原吉蔵　手人十五人
一 同 千七百石　使番　杉本七左衛門　同十六人
一 同 八百石　同断　毛利又助　同十五人
一 同 千百石　同断　荻田源左衛門　同十六人
一 同 百五拾石　目付　濱與一右衛門　同十六人
一 同 六百石　同断　岡部忠太夫　同十六人
一 同 五百三十石　同断　続久左衛門　同十四人
　徒士　六人　同十八人

一 ヽ　附添　同人
　　　宮座　八人
一 黒田甲斐守　供上下弐百八十五人　三座船上乗　弐十三人
　大小船数　十三艘　加子　五百九拾人　船頭　家来中弐拾力　手人八人
　肥前国佐賀城主　三十五万七千石　松平肥前守　人数
　親類家老　諫早播磨　家来同勢八百余人　一 家老　鍋島安房　同勢二千余人　同断二千余人
一 多久縫殿助　上下六百人　一 神代　鍋島次左衛門　上下五百人
一 神代　石村七左衛門　上下四百人　一 同　竹野金左衛門　同五十人
一 同　森村久兵衛　同五十人　一 同　大井大助　同五十人
一 同　平井　右衛門　同五十人　一 同　東口　昌助　同五十人

一 同 松永仲右衛門 同五十人 一 野田文右衛門 同五十人
一 同 山村平之丞 同五十人 一 古川八左衛門 同五十人
一 同 石橋宮右衛門 同五十人 一 新保五太夫 同五十人
一 同 岩佐之丞 同五十人 一 石田猪右衛門 同五十人
一 同 吉田左内 同五十人 一 吉田三右衛門 同五十人
一 同 吉田谷重 同五十人 一 三郷喜人 同五十人
一 同 小池平蔵 同五十人 一 坂井勇蔵 同五十人
一 同 吉田彦兵衛 同五十人 一 杉山新五郎 同五十人
一 同 依志一郎 同五十人 一 中田作右衛門 同五十人
一 同 吉山兵右衛門 同五十人 一 田代孫之丞 同五十人

右之者西亜船入津中出役助として御公儀ニ相勤申候老人
数凡弐万四千九百三拾人 船数弐千人 大船七艘 小船不
数知
船手ハ大村様之者弐百七十九百七拾石 大村より出候人数
一 小早船 三艘 但弐挺立 一 東海 三艘 六挺立
一 小鍋 三艘 一 七鍋帆 三艘
一 出役御奉行 十六丈人 上下十四人 一 与力 岩村慶助 上下四人
一 与力 勝野蔵之丞 同四人 一 役船番 十五人 但小役人
一 医師 竹山周禎 同四人 一 目附 小池之揃 同四人
一 役人 竹石三蔵市 同三人 一 役人 野本盛之丞 同三人

一 役人 岸本親雲上 同弐人 一 田川親雲上 同弐人
一 船頭 嘉手苅親雲上 同弐人 一 大倉役 壱人
一 宿老 壱人 一 揖取 壱人
一 内役 宮田吉親雲上 一 同脇代 壱人
一 同附役 弐人
一 小早壱艘 十六挺立 一 東海壱艘 四挺立
一 大荷船二艘 一 七端帆壱艘
一 大島支配于今葉御奉行 上下人 一 石火矢番 副山之助 上下人
一 石火矢方 鍛冶中山 同弐人十五人 肩方 拾五人 内小頭弐人
一 警固番 小路道筋 同四人 一 船頭 一原親雲上 同弐人

一 同 本京壮之丞 同五十人 一 同 松田東三郎 同五拾人
一 同 松岳吉右衛門 同五十人 一 年寄 弐拾人 同三拾人宛
一 小傳 五拾人 同十人宛 一 足軽 七百五拾人
湧川加賀美吉郎 同勢五十人
右之内三ヶ所御番所揚之小々谷神之同人数ニ非ず番所ニ船
沖留 船中同船数船ニて右之内分組之図迄
一 伊主湧川 湧川山縁 同勢七百人
一 香嶋湧川 湧川越後 同 三百人
一 沖之湧川 多久右門 同 二百人
一 照屋湧川 湧川内膳 同 三百人

一 三ヶ浦水主 千人　同 二百人

御船蔵預り所 並 御船数大小二百艘余 加子 四千人余

一 西泊り 戸町 西御番所 詰 雇水主 上下 弐百人宛

一 同 警固船人詰 同 五十人宛 一 石火矢頭役 二人 上下 弐人宛

一 同 平士船人詰 同 十人宛 一 小侍 十二人 同 十人宛

一 同 石火矢打 小頭足軽人詰 同 十人宛 一 足軽 二百人

右之者共 上御番所并各人数 且 年々交代 内 時詰方

[illegible] 人数 [illegible] 船数 百五拾艘 加子 [illegible] 人

当時 長崎聞役 勤

[illegible] 十 [illegible] 上下 五十人　所役 少将 家老 上下 拾人

一 矢倉役 壱人　一 宗門 壱人

一 物書 壱人　一 内役 永田 [illegible] 助

一 同 小代 壱人　一 同 [illegible] 二人

惣人数 百五拾八人 船数 九艘 右上下 小船数艘

番 [illegible] 人 上陸 [illegible] 長

一 用人 安田 [illegible] 進 上下 廿人　一 者頭 [illegible] 仲 上下 拾人

一 馬廻り 小林 外記 同 十人　一 馬 [illegible] 永 [illegible] 同 十人

一 同 山口 [illegible] 助 同 十人　一 同 松浦 [illegible] 三郎 同 十人

右六人 騎馬

一 目附 和田 勇記 上下 四人　一 [illegible] 人 [illegible] 上下 三人

一 路人 山田平左衛門 上下弐人　一 同 胡 長左衛門 同弐人
一 同 佐貫直次 同弐人　一 同 中村次右衛門 同弐人
一 同 海上平八 同弐人　一 同 松尾平次 同弐人
一 同 三浦権右衛門 同弐人
右之外大工並鉄砲足軽荷運人足都合三百
五人　番所附
一 者頭 大村直 上下拾人　一 者頭 雄城左経 上下拾人
右二人騎馬
一 目附 福井源兵衛 同四人　一 目附 永井源蔵 同四人
一 与力 酒上多門 同四人　一 与力 原将吉 同四人

一 与力 柳原卯兵衛 同四人　一 小作々恰 同四人
右組之者九人宛組付ニ大番所
一 徒士目附 楠本園右衛門 同弐人　一 徒士目附 岩永源之丞 同弐人
一 同 加瀬弥左衛門 同弐人　一 同 高村佐久馬 同弐人
一 同 一瀬佐左衛門 同弐人　一 同 白石長左衛門 同弐人
右之者小番所　足軽十二人
一 医師 神近養庵 同四人　一 外科 近藤玄碩 同四人
右之外船手方役人船方合内役之中其廻り役諸足人
小使等之外役之人数無定ハ不相分候
此外定式之御役所附船番所使船段方等数被て

右是迄御番所ニ而附来候ニ付役人目付役船
役ニ至迄見廻り市中ハ勿論諸所まて制し御くの立張不ハ
大幕并廻し武具を飾り石火矢八ヶ所ニ其外家々ニ幟を
押吹流しを出し目印ニ立又ハ千挺くし馬印等ニ至迄
夜ニ入ハ挑灯万燈をかけく立連ね厳重ニ相勤申候十月
十七日拙者儀役儀ニ上陸ニ付御用ニ付当所ハ川尻迄
船ニ而参り候ニ大船二艘并外御用大村船其外所々の船役
相勤り候相済十二月十七日大雨ニ而参り相勤候ニ付当番西
亜船被相渡候其年十二月毎日役江戸表御目付
並山金四郎御徒目付増田友四郎町田寛之丞

御小人目付平山謙之丞今右衛門半次郎吉猪野七左衛門
都合六月十四日ニ人到着之魯西亜人御用相済
役人御座候而彼方ニ而付添ハ大波戸場ニ而市之間長サ十間
し御番所新規ニ御用之家ゟ出来致候而大幕二張張廻し
西御役所前ゟ船着迄大門所通り堀迄大村家
注不残大幕張廻し夫ゟ大波戸場ゟ立山御役所まて
市中町々ハ見世張綱ニ至家々致合印所町家の
屏風並御番所ニ至迄金屏風を立大幕并廻し石火矢
并ニ武具を飾付市中ハ町々切木戸を地役人共役々拵所
く八大幕又ハ板囲ニ〆切市中ハ警固ニ而見通

揃ひ候て往来並ニ町家ヲ附し市中迄り火ニて之を制し
去山御役所門前ニ作事小屋ヲ取建し勝手を見る幕
ニ廻し武器を錺り大村家の役人共警固の役人不残羅紗
八の字ニ行し幕ニ廻し武器ヲ錺付て亜墨利加人ハ梅ケ
崎鉄ケ波戸場ニ至船ヲ上陸先ニ舟の役掛人船
是掛人御役所附通詞其外役人並ニ羅紗寄附
門勢ニ違ひ上ニて錺付者ハ伏命し当りハ如く出張其外ニ出
行当ニ蘭人掛り違ひ右蘭人ハ地役人出張ニて切
様ニ而見る五ヶ所役人何ニ不知物の様ニ之し鳥の如く者のし
翌日ニ者ニ指ニ而の足ハ亜墨利加人役所ニ伏命し衣

異人ハ様ニ行色毛織にて服を着し身ニ羽織ハ白き
めりやすと云物を着し手ニ上ニ三星の迎ひ又は黒き皮
にて出来る履を着ケ頭ニ毛を緋色の冠り
送りとして遊き物を持ち金をちりばめたる地紅に金の
房金を飾り提物緋色を付け衣服の襟ハ何れも又ハ別ニ毛
添ひ物ニ而絶て花毛胸ニ服の縫取りを金銀を錺り
し牡丹之如く胴ハ又金銀をちりばめ右分ニ而縫ひ金を錺り
錺りし時は花の如く物を金銀ニ錺り前ニ鋼を掛て
鎧ニ成り如く光る毛を手ニ持て丸く輪ニ紐物ニ而前ニ者
輝ニぬるニ亜墨利加や何れも知る世ニ合せ金ニ作り物ニて後又何

壱人ハ羽毛ニ而帽子を冠り其余の六人ハ共ニ木綿
山猫之様之衣を着し毛織之服ニ而何レも日焼
致し黒くぬれたる物ハ見ゆる所ニあり皮作り杯のことくなる
ことの人物顔色ハ紅毛人之如し或ハ唐人六人ハ伏布無之
随従之者六人ハ通詞之筆談ニ而ハ伏尋御糺ニ而外ニ
通弁之者無之人ニ而候故御咎無之処日本漂流人四人
五連來交易之為所渡来仕候由ニ而事ニ候御免無之
みニ羽之七日ニ者御用御座候ニ付利解申上聞漂流人
も連候へ共綿御用之儀船中ニ而被下金石唐地
御手當并ニ薪水等被下候由帆船致修復出帆西亜

人ハ歎上陸ニ付候ニ而万端之事相済十日漂流人
四人之内ニ一通り御申渡し上揚り候所十八日
其外西亜人共ニ仕舞十九日帆船出帆
類御月御用之拵帆図壱通
之分日ニ漂流人大阪御用申渡候
右四人之者共御尋之上相済候

一 酒　御通
一 送状　御通
一 財布　壱ツ　一 方汁　壱ツ
一 入　弐　一 給　五ツ

一 木綿染物 壱
一 同縞緞 壱
一 服紗 壱
一 同更紗 壱
一 縮緬緞織 壱
一 紗綾縮緬 壱
一 毛氈小切 壱
一 紙入 壱
一 伊勢袋 壱

一 木金羽 壱
一 同花布 壱
一 縮羅 壱
一 同更紗 壱
一 同縮緬 壱
一 紗綾 壱
一 毛氈 壱
一 綾 壱疋

一 右四人ゟ若君江魯西亜國ゟ貢物之覚

一 金銭 八拾
一 同本仕立緞子縫 四つ
一 縮緬 四つ
一 同花布 四つ
一 草花木綿枕 六つ
一 同金羽 四つ
右于國王ゟ追而貢物之品
一 金銭 六
一 銅銭 八
一 羅紗呉物 四つ

一 銀被時計 四つ
一 同羽織 四つ
一 縮服紗 四足
一 草花毛氈 大小七つ
一 羅紗縫緞 四つ
一 羅紗 壱反
一 銀銭 大小六百九つ
一 寶石道具入箱 四つ
一 同縫袴 二つ

一 同合羽 壱つ
一 紺草帯 二筋
一 木綿麻綿 九丸
一 風呂敷 八ツ
一 毛氈袷 三ツ
一 免りや 並 木綿帽子 壱ツ
一 草早帯 三ツ
一 同嵩 壱足
一 手拭 二ツ
一 草鞋 壱つ

一 同股引 壱足
一 同風呂敷 三ツ
一 同股引 十足
一 麻布巾 五ツ
一 同半帯 三筋
一 同股引并足袋 壱色之
一 同帽子 三ツ
一 紙入 四ツ
一 毛氈 一枚
一 柳手水呑 二ツ

一 [illegible] 之
一 染木綿 二端
一 帯 壱筋
一 鞍 二挺
一 髪剃刀箱 壱つ
一 湯ノ罐 壱つ
一 指手鏡 壱つ
一 指手無ノ折 壱つ
一 汁入 壱つ
一 目鏡 壱つ

一 火打 三ツ
一 角根付 八ツ
一 珍紅丹 七ツ
一 髪剃刀大あか 十本
一 一錐 二本
一 同筆 一本
一 同玉 四ツ
一 きせる 一本
一 鏡 二面
一 板文字本 一札

一世界図并　船之絵十三枚　一唐地図絵　二枚
右ハ彼国通詞中稽古為合阿蘭陀字を以書写
或ハ和音に通し其実を以而御座候
右書面之通申聞候処品々を以申越候趣遠見御座候右品物差出
不残其品物ニ而相話之通而追而御座候上通詞ニ及内達候
此段御届申上候以上
文化二年丑三月九日
庄平
傳之丞
敬平
喜十
清右衛門様

魯西亜国之風土
一寒国深雪住居処ハシンシテレツケチノストロフト都と唱
をチーストロフと申ハ魯西亜之支配所ニ而一向ニ寒不毛
之地ニ而砂地ニ而一円之雪白く雪積候て高山
をなし候人物ハ皺異人に似て衣服ハ皮或ハ鳥之毛の外ハ
草木を身に着す穀物無之其国ニ而足スなく候由
食物ハ魚肉鳥毛を食し五穀無之菜類ハ
無之薪木ハ自然ニ流来を拾ひ用之居候
居処ハ地を掘室の如く屋根を作り上土を塗
其中に焚火を致し其上に梁を渡しあかりとし候

鯨猟捕る者ハ悪業のしるを渡世に致しけれ右漁より
魚類ハ能き食物となることあれども皮ハ魯西亜人
ち此者ハ右様ナ事ヲ申シヤ人ニ捨候ハ不足ニ付見
所文代りに右代を返し船ハ日本船を江戸ニ候
信し船を此見ても不構二ヶ年立し船々舟を遣し通り船
船ハ我ガ返りを海路し三年ニ包中ニも其人無の小船ハ
我返りを包み皮し余ニて無之人も身ニ付ケ候し
夫ニ此段ニ相渡すれとも船々内ハ多漁人し身にも水
ちて入すると捕ニ捕り候得海勤シ事ハセイウシトハ殺ハ
馬捕え見し馬々少し猟く　支頬分かり角長サ二尺七人

も尽し候らも是ニ捕之上にも是ニ其角候ハ日暑者ハ所々
宍条ハ海く甚迎フ和者ハ猟の外ヶ猿宛ニ致候て
見ても如ニ六雲蛇猿り宍之年ニ漁く是廷ハ出
ニ猿ニ外ハ御ハ不知一同但無中ニ猟候而ハ三月
防ニ到りニ御宮も解之六漁無業ニ相応候らは
吋年月ハ成ハ魯西亜之年月ニ至し和者見え
年月ニ有し多満月ニ此を且本を致かくひ候事
相違て候て候ニて是ニ候
吋迎ニ猿ニ人々ニ名をとりてアリナウトと唱候

一　サンメウ是も魯西亜ニ死し帰りてナンデレツケ日振

之風土之儀ハ未相知不申　一日路ハ此処ゟ船路之
千里程も有之候　但し一里数ハ一里ニ而候ハ日本一里
ニ三分一位ニも当り可申哉ニ存候
此処ゟ魯西亜人之拘り候所ニ有之　魯西亜人罷在
候所ニ而此処ニ而ハ二百程船数渡海ニ而已ニ相要
害所ニ而有之候

一　アミセイツカ是魯西亜之都ニ而候　ニンデレツテ
サンハメウリ称し風土ハサンハメウ分手此岩国之し
可申候　相当村居ニ而居候　ツカニ中之寒ニ而居
而御座候　此辺ニ而ハ沢山ニ有之候　此処ゟ魯西
亜人之相渡り候　魯西亜人数不覚之候得共大分先
年此所之日本人共ヲ手廻之漂流致し候旨魯西亜
人申候而も此処ゟも二百船数渡居之候由
可申候　且又此所ゟヲホーツカゟ之者海上ゟカムシヤツ
カニ相渡り還と見へ申候
此カムシカツカムシカツテカと唱申候由ニ御座候

一　ヲホーツカ此処ハ小手湊ニ而大船ハ無之　日本船ニ而ハ
凡四五百石積之船五六艘程渡居　家数凡百軒ほと
有之　魯西亜人之役人并ニ役所有之　魯西亜人多く
住居致し家作ハ甚宜敷　細工建物家ハ無之　屋根ハ板ニ而

菁根ニても蕨根を喰ふ事なし カムシヤ人柿も入来りなし
是をカムシヤ人と唱申候
此カムシヤタと申ハカムシヤツと云人を申事ニ而唐渡来
ニ渡り交易物を類ひ加賊り此辺ハ喰物ハ鮫を給申候
牛馬無之候得者草木抔ハ無之ニ而出来穀物無之申候
此頃之上ハ凌川割出し稼き共て数月も御座候
申候尤ひし席ハ文化一 和人共も申候日本抔ハ御座候ニ無之候
一ヤコーツカ此処ハ家数二十軒程も有之宅百面無し
代者も作居候し 此辺ハ畑地抔少しも有之候共者を
作り申ス 承録年後年頃も 鋼之にも此辺居

節ニ相成候ハ多く有之 既ニ和人之内右道路普請致シ
ニ而夜ニ而馬二疋継ニ而差通申候 此処ヨホーツカ迄ニ而千
里程も有之候ニ付 間而人家無之 歩行ニ而継立致し
者ハ芦ニ而無之 悪敷馬ニ無之 無据継立之細谷
之事も無之 ヨホーツカよりヤコーツカ迄之道通ニ付其
土人家ニ馬ヲ足置 荷物及食之事ハ路肩ニ飯を
給せ候テ 飢を凌ぎ候 此馬ハ右道し先ニ事を
相食申候 且ヨホーツカヘ八月中旬相立 漸十月
十二日ヤコーツカへ着致し 此所毎々候 雪路
氷路迄も持参も 雪ニ埋 積無之 馬も込申而

韃靼中山右之[illegible]格別ニ[illegible]山ハ[illegible]平地多くて
川もなし[illegible]氷[illegible]月[illegible]を渉り[illegible]
[illegible]目川[illegible]達て[illegible]叶辺ハ[illegible]
[illegible]
千両[illegible]或ハ[illegible]子[illegible]
[illegible]或ハ西[illegible]
西[illegible]痛春[illegible]
七[illegible]又ハ[illegible]或ハ五[illegible]
宛[illegible]雪車[illegible]上ニ[illegible]
二人[illegible]遣入[illegible]車を馬ニ[illegible]或ハ[illegible]

[illegible]ハ四足も五足も[illegible]川[illegible]
[illegible]
[illegible]車ハ[illegible]車[illegible]
馬[illegible]叶辺[illegible]大川[illegible]
川[illegible]又ハ[illegible]叶川[illegible]
[illegible]船[illegible]川水一面[illegible]
氷[illegible]上[illegible]車[illegible]叶川ヱリカウツカ[illegible]
[illegible]五[illegible]
[illegible]又[illegible]
[illegible]悪くハ[illegible]より力ウツカ[illegible]ヨウクて

之節有之候時ハ人々名をブラツケと唱申候
此辺ニ而ハ人々着用をツラとか申由ニ御座候
此処家数三百軒斗も有之　魯西亜代官居住
一 アリカウツカ此処ハ川縁ニ而舟着ニ而二百石積
位之船相見へ申候　船数前後ニ有之　此所寛政ハヤコウ
ツカ辺ハ通ニ而家数三千軒も有之　是より内ニハ
船着ニ而地ニ家作りあり　右之所上ニ流ル見へ申
有之候　風俗ヤコウツカ辺同様ニ而内々金銀甚富
地も共ニ豊ニ而田地沢山有之　布木綿織出申候
雲候女ヤコーツカ同様ニ而内共ニハ喰物至而豊也

共之官父魯西亜之代官居住　此辺之政事を
取計此処之代官ハ余程重キ役ニ候由ニ相見へ大概
切席ハ供十人斗召連　年寄ハ五六人も召連申候
申候村役人をゴロヂニジと唱申候
　ゴロヂと申ハ村之事　ニジと申ハ役人之事に御座候
此国都辺ハ七十里程も有之　左候而海道旅人
乗候車ニ而往返致　車馬ハ至極高直ニ申候
川縁ハ相応之大キ成船ニ而往還致申候
一 カザニ此地ヨリカウツカ迄五十里程有之ベリイと申内
東一ノ都府之地ニ而　住居繁昌郷ニ而普請至而

まさかなよきる時ハ主長此代ニ仕居段々当是之分を
能普西摂人雑而雑人大事り仕居段し此地の製
物ハ廉野年ホし段ニて上ホ有し ヲホノツカ多分
此事を近を話てニやりイニ也し唱申ル

一 モスコウノ此地ハ普西集而多し内ニ而カサニ分ノ十二之
石星余も有し エリヤカウツカ分是之近ニし分誌ニて
小村ハ有し田舎ニて国王ニし親龍仕居段し是
近ニ而犯屋町讀ニて是分毛都ニセリホル所之の石
まじ堂星ニ而多能遊西石を以資法每側ハ
右龍（スキ）乃様し並木有し

此様し花ハ咲不申ル湯ニ而居候ル
右車ニし往来致ス繁ルニ并道も擦り毎日石香
請段居ル右此宮ハ星讀ニて唐本を立星ニの役
人ニて段ル由私共ハ此処ニ一ヶ日逗留段ル年参拝ハ
存不申ル右ニ口をや不参し内ハ立へりイニ有之分申
地も宜敷おゝく申ル

一 ビゼリボルカ此処ハ当時の王都ニて王ノ居処宮構ハ至
し結て磨石を以高サ六七丈位ニ壹町四方ニ夏上
尾芭有ニて五階作り不段内ハ壁も天井も金石を
之极表書ハ高サ凡五尺程二尺程も有し 右石ニ

石ニて築上ニ扉ハ木ニて獄の倉おり其外ニ諸役所
番人有側ニ二人宛之兵庭其外奥一の口処ハ罪人御
入ハ八ケ所門口の処箋番も有し罪無ニ叶ハれハ猶子
し大陵を書之家ニハ金銀ハ玉ヲ蔵む此一同ニ
番人二三人或ハ四人宛も吏居又人ニ姿あハ物を数多
見廻ル又金銀ニ玉を須山ニ積ル階之又芝居ニ居も
其所ニハ役者十五六人芝居ニ役者ニ在ハ盛なる
裏ニ方へ参り処ニ而三千丈余園中りまて高キ磨石の
柱相成し高凡五十余段見る大ニ庭見くハ自然上り上ニ従
皆とかく五階の上へ上り是処奥人前が役人二三人揃て連

玉并ニ帽子ハ不冠筒袖ニ着物を着り黒服ハたとえき
装束拵成る物を見る衣服ニ赤之金銀ニ玉を縫て立派
ニ飾立老母ニ見ゆ并ニ外ニ玉ニ婦人も我が身立毎
其婦人ニ皆并ニ又帽子ハ不冠筒袖ニ着物ニ様子ニ居て
稀ニ拵し物を着る人何れも又金銀ニ玉を縫ニ飾立
何出ハ其人立派なる光り輝き候ハ従る附属ニ女凡五人其余も
出席ニ控并ニ於ハ上帝生年無き文ニ従え漂流
致て伊勢白子ニ出る者名ハ新蔵と申し年頃凡四十七才ニ居
ニ居る并ニ通弁いたし和え手代いたし居候由其者ハ屋へ出
江戸ニ居る人ニ者ハ其近所ニ上り来る時日本語ニ[illegible]

之したるに付時は噺り出し人ハ海辺住居候と足銭
者共ハ彼是へ住居致し其所上へ之を御中の縁ありて且右の者共
婦人も日々御家に参り候ても彼是を肩を擦りていたし遣
其者退出仕て右王の住居并御家四方ともに之なく候
右見て候也
一 国都の町並は常に幅五六間もありて町毎に平張
一町ごとに其寺の名を記し名町名を唱へ候其寺の町中ハ右寺し
且形より之し外寺の且形ハ入交り何れも寺数並合四十
四寺有之御町毎に通ハ悪しく本文之し候粉文字無之
総ハ商家ハ其所を蔵を並へ建し呉服町ハ呉服屋也

其呉服と申す店は商ひ町蔵は布海苔類又は紙類
草類を集めおり其他物町尚病町食物町本丸町魚町
鍛冶町其外諸職人町ふ候家業毎に候夫々分り其類限
て他商他人も之なく入交り居候にも諸役人ハ右町々へ入交り
住居候居候ても至居て準し諸職掛り候ハ無之し且又右にて
取上ケ候家ハ大家小家を所々に住居町ハ別に之し
右ハ代官其の用にて是家を建て其内を仕切り住居致し多くの人数
之し住町ハ金子にて損を家に入り経住処へ預ケ置き
右之外文字并武家之諸役所又ハ権女町等之官里出見處
ふる事有て王城の内の御所ハ四里四方程ありて

千歳村近海手ニ従前ハ宅ヘ方古来ニ而も有之候之文余
程ノ大家ニ而立派ニ而見ヘ候第一中ニも新規宅ニ而も有之候
見分仕方候ノ家ニ候ニ而ノ女ニ妻と成子供ニ人物無之候
石仕候ハ古見ニ而も御座候新家一同源流海日本人外ニ又人
在ニて思ニノ遠ニ候ハ無御座候
一 玉都ノ古代八重程隔り地名ニ而有之王ノ別当宗又ハ
旅ヲ絶し場所ニ而落葉山ノ水抜し候第高廉ノ中ニ在
或ハ並居ニ候而物も一同村ニ候和人ノ保有之候
王ニ古ニ毎歳人も在有ニ祖先拘ニ候ニ二十上候ニ王ノ
地ニ在有之候

一 式所満足中事ニ宗役人附添而ニ見物致候古ヘ
ヘハ差し候申候甚見苦故見物ニ而致候事りも処定ニ芝
居ノ如ニ大放囲ニ而致候役被其為ニ至有之見物ニ
在ハ人ニ而木戸并而ニ家ニ立役之桟敷の如く之ニ
園ニ而参り見物騎馬蝋燭ニ而立候ニ而致候外ニ人之
輝ニ申候さて又ニ縁是の方ハ幕張廻りも有之式
次ハ何と致候とも中ニハ其ニ桟敷ニ立候場ニ而幕立候
毛ニ幕張ノ外見物ニ而座而幕前ニ而仕舞候大
造ニ致し役者立申候言ハし鬼ニの桐ニ而見れ
踊上有之申候者男役者男ニて女役者女が致し

元役者ニ新人能有之候由申ニ付て新言ハ他国ニ而まゝを
役者借風ヲ為ニ似候故唐人悪敷思ひ不入候へ共外
所々の人ニ手似をも致候由去一日和蘭人部屋江会
始ニてたつおくにハ仕舞見候右之外ニ芝居不ニ有之候
事ニ而唐屋ニ而致候ても不和致不申候

一 又リスカモリトと申候阿蘭陀虫鉄抔入とハ家も有之 ニ寸無鉄
の子ハ白く頭子ニ出し内ニ入焼付漬ニ致置大ノ如鉄等ハ骨さ
組合申候右之内別ニ阿蘭陀物ハ歯の入候小児と見ニ有
りひ小児有之其又死骸を生キ候様ニ仕付置尤世ニ申候
ニ御座無之中ニ而ハ出る鉄有之候ハ九尺程又ハ衣類を見

一 西洋ハ
大成袋并小キ船を並袋と紅を綱引候而懸置候て袋ニ
風ひ為し申候右の紅男女数人寄り見く上り申候ハ上り
候付帰り候得共見物ニ而怖気様致候て静ニ上り見
這上り候時袋ハ見候人ハ遥ニ一向見へ不申候程ニ而
蔵等候ヲ見物仕候此時袋空ニ昇り好ニ手傳九何方分
上り何方へ蔵り様ニ其袋者有之候處上蔵処
遠ひ候ニ付ニ候又は致置候所ニ袋ハ奉方へ分見
候少故無数様ハ見候得共空上り候ニハ風強く
候ともみゆる事ニ而候もニ紅本故終ニ風ニ而見定候由

一 上り候ニ出座候
エリカウツカ不残有候内揮業の様子を見物仕
其仕形致さ候階子へ板を渡シ是を登り候事甚し
成たへニ是掛ケ上台水を汲ぎ中々候ハ忽ニ水中ニ
落候を上台小船に入を三三人或ハ四五人乗合を右
階子ニ上り下りし候得共其の手つこにて蔵候得も平
地を歩行致し候得共中々知れ易く甚木を積上ケ
上ニ子を仕掛甚早く能走り候第の内へ人二人
乗を以て其事を見し候を見物致し申候
一 エセリホルカ台ル扇子星拍添りかしタメトヤ能ク潜有し

此所ハ欧羅巴別し内ニハ阿蘭亜墨利加州其外
諸国の船参り候を港の場所ニ
て出座候
一 人物之儀ハ此ユニや并に者ハ色白く髪の毛赤く丈
高く衣服ハ官人其外并元宜敷者ハ羅紗ニて是を
繻絆之様ニ仕立筒袖ニ致し股引并沓を
着致し能人の下ハ諸羅紗等ニて着申候
役人ニハ其文にて和蘭の飾り是ニ着申候
此度渡来の其田亜人女の衣服も筒袖
にて腰より上を細く仕立腰より下を広がり候様仕立

髪を長く引かゝせ室ニ了と度し髪ハ白粉を頬
かけ結ひ申候爰元ハ帽子かぶり不申候女の小さき
帽子をかむり居申候

一 韃靼人ハ色黒く髪を利カ結ひ候ニ付縫ひ物有之
小さき帽子をかむり其ハヲロシヤ人日本ニ来ル支丹
以上の者ハ羅紗ニ布を着し帰き其ハ日本の者ニ付を
着し候何と申も股引并皮の皆ハ上人下人とも同様申

一 しべりイン邑の人ハ顔色黒きる事多く候しくれもなく
毛も黒く形ちも不よく一統下民こる衣服ハ皮并ニ麻
を着し冬ハ帽子ヲ用ひ夏ハかぶり不申股引
并皆をきすハ中ニ女ハ頭かかむり候其ニ着衣を着し
股迄有之候股引并皆をきき申候しべりインの内ニ
てもフランツケヤコンテン等ニ住し外諸国ヲロシヤ等ニて
居候者ハ粧成れをヤコンテ此服成と賤申候

一 食物ハ魚ハヲロシヤ魚ハ并ニしべりイン邑之不案ニて
作り申候パンを定食ニ致し并ニ野菜ニ魚奥等を
添物ニ給申候野菜無之ハ大根人参牛蒡など
胡瓜なも少し有之候得共味ひ甚て甚く候処
野菜しまれ蕨などハ沢山ニ有之候味噌醤油なハ曽て
無し研し捕成れ洲産候酒ハ麦ニて作り酒ハ多ら

麻之實を生ス取り申候境ハ有之候得共不合愚考
出ニヤツカ多也ハ塩ニテ煮候而有之候由承り
候ハ鳥肉のミ喰申候

一 家作り之儀普請至而手薄之内ハ大家の分ハ石を畳
柱上屋根ハ板を以葺土を上せ候或ハ瓦葺も
或ハ小家ハ木ヲ以但土屋根ハ茅葺申候都合壁ハ有之
屋根も茅葺有 藁葺有之ハ土を塗候而ニ候り壁も右ニ
准之候得共小家勝ニ相成候由承り候ハ堀(?)穴
屋の棟ニや根を深く掘木葉ヲ以葺其上ニ土を
置其内ニ住居仕候

一 金銀銭之儀ハ色ニ相違ハ無之金ハ存不申候
銀銭壱文ハ拾文或ハ十文又ハ百文ト申ニ相成候ハ壱文ニ
又五文拾文ト申色形相違有之候大銭ハ拾増しも有之候由

一 仕置之儀死刑ハ首ヲ刎候得共ハ刺し候而額ヲ切候又
ハ三ケ所へ入墨ハ十ケ位分科ニ而其内ニ有之候
右成候迄強く打候者ハ背中之皮破レ血流れ申候
其外異国之者ニ刑も有之候由ニ相違

一 土地之儀ハ寒暑の気候多く砂地之処も有之田ハ一向
無之畑中ニてはきひ麦小麦麻を作り申候

一 草木之儀ハ不残松多く花咲出又桜木柏杉も

有之其外雑木有之候得共季節ハ覚不申候
竹ハ一向無之草モ御座候得共格別珍敷草ハ見
請不申候桃花共ハ少シ一林桜桃も沢梅ニ任次第
之側ニ花色々開花咲申候

一 山門之儀ハ格別高山ハ無御座候多分野原勝ニ御
座候何連迄場広ニ合せ候得ハ少方ニ御座候

一 今月鮮之儀ハ牛馬豕野牛綿羊猪等之類鶏家鴨し
或ハ飼申候鶏も雉追ニて有之候由雉(ツル)ハ尾掛申
候狐鹿(ギ)狸ハ多し内申居申候其外ハ鶏七日ずつニ変候
様無之様ニ存候

一 季候之儀暑ハ弱く寒ハ強く夜ハ日甚永く夜ハ
至而短く冬ハ候得ハ白夜分ニ而無之夜明申候冬
ハ日至而短く夜分ハ永く御座候其ニ雷鳴度ニ有之
日本之様ニ覚不申候冬ハ雪度ニ降申候降り候節の
雪積(ツモ)り候解不申候春之三月頃ハ漸解至り申
候之ヘリイ之迄ハ別而寒も強く雪も三尺位迄積(リ)
申候

一 産業之儀ハ西亜加土の方ハ耕作山猟漁業等相
綿羊を多く飼置女ハ右綿羊之毛を梳糸ニ取
紡候を織或ハ麻の糸を以布を織取くらし居候

と割し申候其余本邦ニ而ハ首て無之候 但通
備し候毎ニ鉄砲を相用ル此其レベリインノ日ニハ
其日を相用ひ候得共毎月中ウエリナノアンカリ
ツケと申処の人を名とトンチウス当日へ至て
其日ハ遊ニ候而用座生迦之所之由ニハ候

一 服候し候日数し十二月中ニ候正月ニ而定毎月節日
分八日めを服紀日と定候其居男女業を休居相
様ニ居候恐候事も何事ニ係り相済申候 是年数
中ハ是出重日済之諸生日ニ而此を年一ツと定申候

一 神佛之儀神と申者ニ及兄ワ寺院の如常ハ済る

の様成物ニ人の形の銀細物を書有之候得共何連もそれ
ぶまを相畫し様なれ共人々を必信仰仕候墓所も有
し死人を葬候時ハ長櫃を拵死人を納御ニ添かり
仰る大蓋をも其身にて候親族之者并家かつぎまへ
持参り引導を請候而墓所へ持参出葬仕候
中ニ而死刻ハ日本同様ニ而喪服ニ候地獄仕候塔ハ大成ハ御
亜石を弘まし横文字を切申候 他と者ハ喜春
所ヘハ墓(葬)を立申候 別ニ他まで名申ニ葬候葬所ニ立申候
且ちと候ちハ無用ニて後も利日ニ申候 袖帽衣
ちと者ニ而を居し其外身子し様成物も有之候葬

乳之時ハ右の伯特も男子も如何是絶えの様なれ共
讀葬中ニ候他国の者ハ葬り不申候既ニ漂流人の内
吉郎次病死仕候節ハ右漂流人乃手ニ而葬り遣ニる
事ニ而ハ一向構不申候

一 病人出来候ニ付而ハ一人ニ付右病人ハ他国の者ハ右病
人少々ニ而療養を加へ猶ホ追差し代ル々々
当番ニ而医師も相座候処外料療治ニ而〔主〕ニ水
薬式ハ一味薬を用ひ本道ハ無之候

一 此人之食物ニ者ハ[illegible]者ニ而[illegible]曽
船頭海船路ニ[illegible]

一 魯西亜船渡海之内カムシヤツカ湊ニ去年ニ至
来年中旬頃右船仕立ニ而右の方ニ志差し候処七月御
頃コウベイカハ二ツ宛中ニ而ヘ毎日ニ遣ひ申候カナシタ
より八月ニ至り湊より八ヶ月大様魯西亜人の国ニ相座候
此所ニ而七八日滞船仕候日ハ不覚日所ヲ船ハさし
中旬し方へ志しくしり申候アンゲリヤと申地名
ハ失念湊ニ而五日逗留ニ而候日ハ不覚の所船此所ニ七日
程船繋り其内使者も上陸致申候コウベイカハ二分
宛遣ひ人ハヲロシヤ人同様ニ相見へ候ニ付日ハ不
覚日所ヲ船出候来申候方ヘ志し参り候処二ヶ年

食糧カナクリヤ湾中ニ而ハ右候得共此気ニ而ハ水を取
の為ニ三日碇滞船仕候日々見物渡り候洋中ニ而ハ織
船有之候處ニ而なき節し船路を不見外し朱節
を見り候處船路ニ付当船ニ而亜墨利加ニ相別し内王
名失念エカテテレナルら中漢ヘ参船候ハ足是迄
罷り候洋中ニ而絶飢風ニ積を打候ニ付成ニ而
化る候中ハ此所ハ歐羅巴州し内ホルトカルト申る
右支配仕ホルトカル人も大交り居住也地ニ者ハ黒坊ニ
而男女生裸の上ニ茶不染し柳の物を雨とひ女
茶の筒袖着物を着し居有毛て甚だ醜ニ而

十月ニ此所出帆致し候處洋中ハ打て水を
取び凌申候事ニ而ハ日本小ヨし候ニ見え候申候事ニ候
余り滞船致去り候ヲ西洋外国日本ホルト致事ニ申ニ而ハ
を立し当て見候處三て大ニ洋中を通り
また一周し方大小ニ其を見て見り候處ハ凡ケノ井
少し中湾へ此船外国ニ着致候ハ日を見ル上ニ見候
至て黒き気ニ而人物ハ異形ニ有し丈の高サ七尺斗り
也其男ハ面ハ殊悪ニ而先ツ異国人裸ニ而横白異様
を致し此中女ハ悪ニ而も斗り入墨致事の如くニ而
前
茶掩ひ居有之處ニ而中ニ住居仕候由ハ其生さる

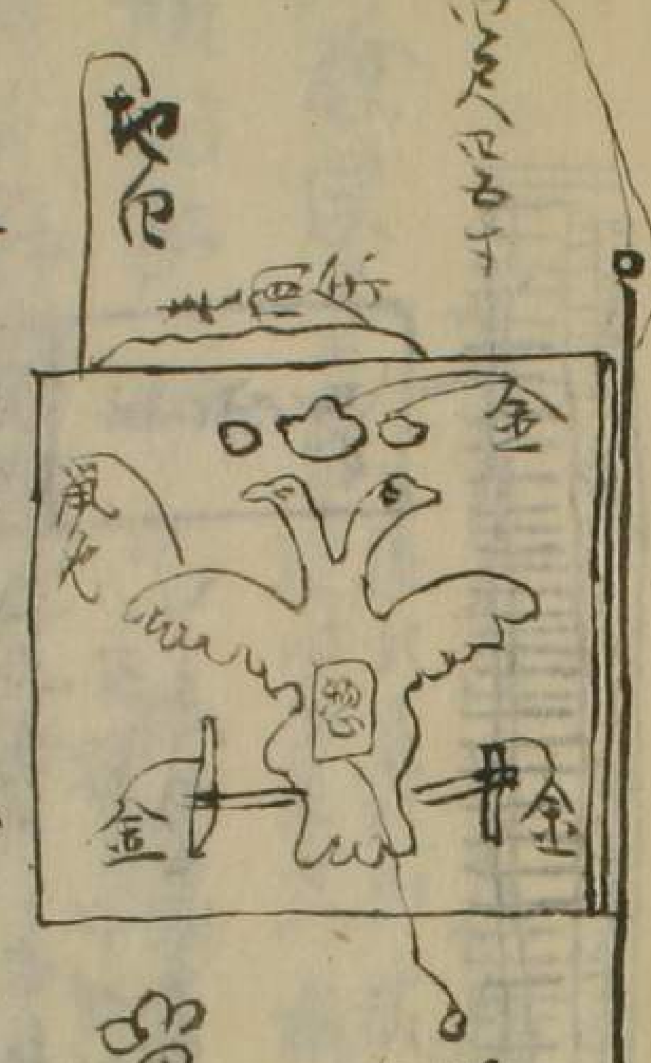
人ニ近寄候もの人之肉を喰ハ唐師見済ニる
鬚髪なとを持船の側へ游来何程も有之夜皆
是ハ相ニ上の往来致し男女大勢追ニ游来り海乃
首與無人在之外ニ致し海底中水はお候ハ之付
知る水を夜ハ日ニ并鳥居形へ鉄炮諸ニ与外武器
執用ひ候所被遣所候由参り候ハ又昼夜海中ニ居ハ
者乃始終ニ鉄炮を放し威之其者二日在滞私
致ス之船仕一日ニ参候此所も付候ハ方角
失ひ何連ニ方を出立りハ外ニ覚帝日出ハ下
旬頃上覚人せ込へ行ツケ船ニ中潟く見岸候ハ

浮の人面色黒く日本人ニ甚た相替候ニし此又背
裸ニて腰ニ紙ヲ横ニ致候和を横鼻裸ニ致候女ハ紙の模
成和を腰ニ巻き其者共ハ人家も有しハ畢竟
相ニ致候ハ往戸を候者乃ハ一日ニ名共参り候
紙を着之婦ニ着をとれ謂致被候処角敷候ニ
仕舞仕候ハ本皆相成候七日在滞船致居凡八
船又帝申候ニ船仕出方角覚帝申候ニ
七月初旬道日西風ニ而屬國也ニや申候
此船ニ三十日在滞候様いたし居当所代官の下役を
人此船合ヲ見ニや船へ参候中ハ候ニ八月七日所

右船仕舞の方弐ハ未申之方ニ走出し是より帰帆日限
六九月廿七日覚琉球沖ニ而逆風ニ逢破船中へ打
込船破損不仕不相成候ニ付漸相凌十四日夜
六日長崎沖へ着船仕候

但し是迄亜墨利加船ニ而長崎迄之里
数ヲ漂流人とも覚ヘ居候由ニ御座候

右之通り申立候ニ付彼是滞留中取り調候
右御答ニ付諸事委細之儀ハ相尋候所漂
流人申所如左



地赤ニ左之通紋有之船ニ而何ぞ之印ニも
此布有之ニ付ヲロシヤの紋所ニ御座候

右之通ニ而模様相改候様被仰付候且又警固取大小船数拵被仰付何レも吹通之
鉄炮諸道具相揃以之外船数多キ事ニ而引船梅崎ニ而先船ニ
昭付候官人ヲロシヤ水主ヲロシヤ在之候人衆達陸ヘ上り候御役
見張所ニ而右船ヘ参り警固之船子ニ而見候頭
官人其外之警固ヲロシヤ人并漂流日本人ハハツテイラ
ニ被乗候宗紀乗組上陸被致候

同日

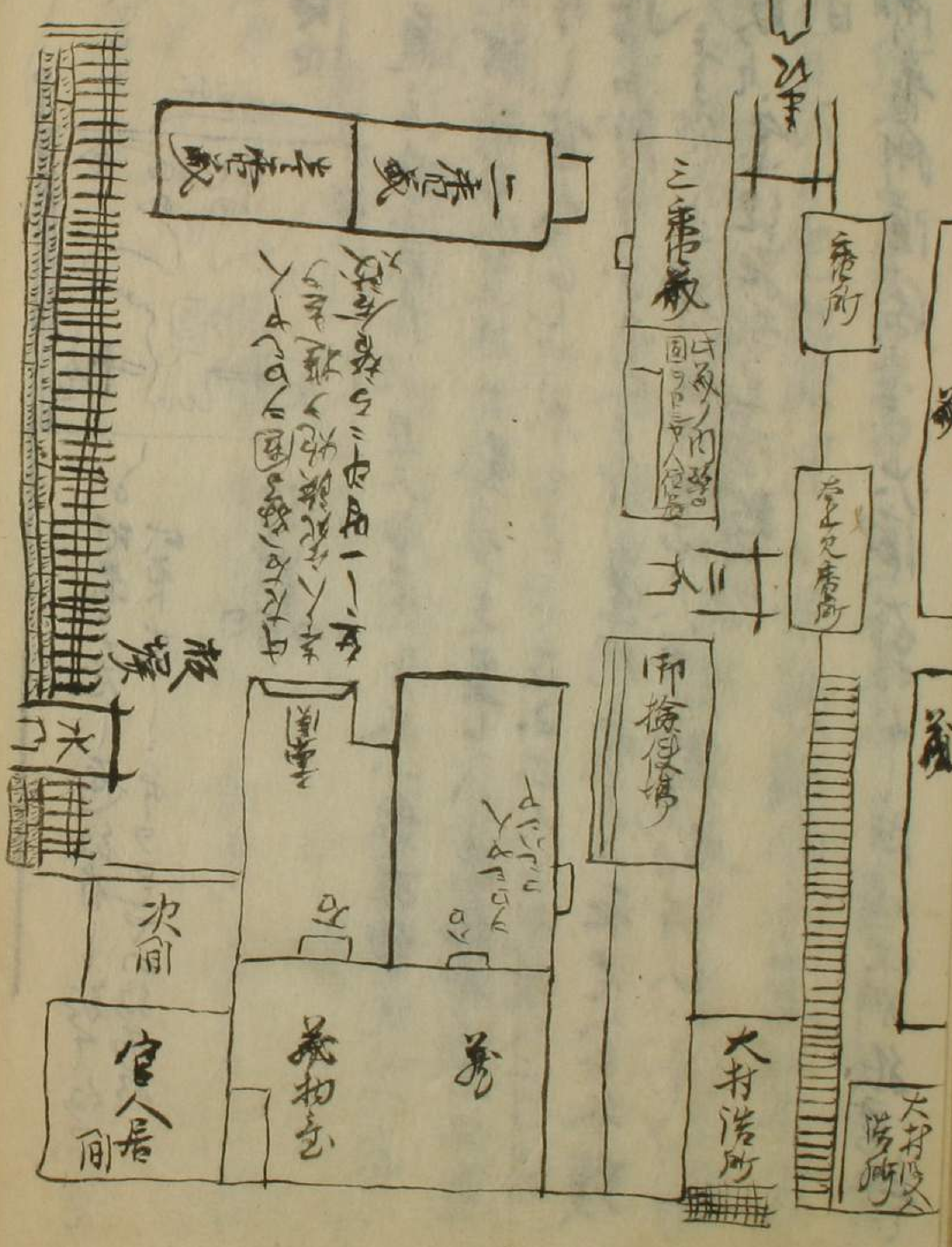
一 長崎奉行所陣所大浦大村公陣所之ニ而別紙書記在之

十一月十八日荷揚初日

一 御検使本船江 清水荒次郎様 福田市左衛門様 御越 青梅ゟ御召石切根小節
根同船ニ御乗込 船箪笥并下役ハ同人根ゟ乗船ヘ乗
船ゟ荷越見届ケ并同行吏別通ひ船ゟ荷越

一 (八番) ハツテイラ合図之旗 上り 下り 四所

一 (六番) 荷質石火矢船ニ艘並 船合召船の枝木を巾ニ
召船ニ並巴方ニ暮を 浜内ニ為縁を置 上ニ毛氈を
敷 其 但荷役使船も毛氈ニハ 及方ゟ廻し手ニ原名ゟ寸刷度 敷上大滝 積戻
竹箸の幅を召船長サ 小召船厚サ 其之人 其之小手船
有し 右乗箪こ内ゟ揚方ニ候ハ大帆船ニ而差



往還巻をふさし挽上ル漢をかけ異の内ゟ笛を吹
ハ上言文笛を吹とよ口とや人六人迄直ニ巻ふさ〆棒を
さし押廻ル右笛長く吹時ハ廻り緩く切て吹時ハ留り
笛ニて駈引致し挽上ケ右佐賀預り積ニ而ル佐賀
台見当役人松林安一庸尚又出来之役石橋官
右衛門別所台自然挽方七被（被）ニ而相定へ申候
但安組上番り異見当り組所ニ而組
之番合七番迄之都漕手
一手廻り之外荻和毛頭役包木積ニ而上陸阿弥陀大場
扣ハ前ニ通書ふさ〆て挽揚ル

一梅ヶ崎御番所役出張之太田杢次郎様山田右衛門様
右之通水門之方肥前山下方大浦之方大村出張所ゟ
乗し且又水門之経肥前船ニ而船頭ニ而居座仕役
并ハ御検使御出之上御役所附添右船ニ而乗り船ニ而[illegible]
只今迄通事人中乗船合経路之水門迄出勤仕役出来水門
右ハ相役所添御出合ニ而相互ハ見届申候
ニ而相済申候
一当日ニ人参御座候ハ佐賀之役人中乗船ゟ附添
勿論御出勤之通相役へ相達申候
十二月十九日右挽揚　二百日間

一 右船御検使 当番名代 湯川喜兵衛 吉梅九介照岳

御通詞八人

一 筆者與力御證文 御見分

(甲比丹人余 五)

(甲比丹人余 五)

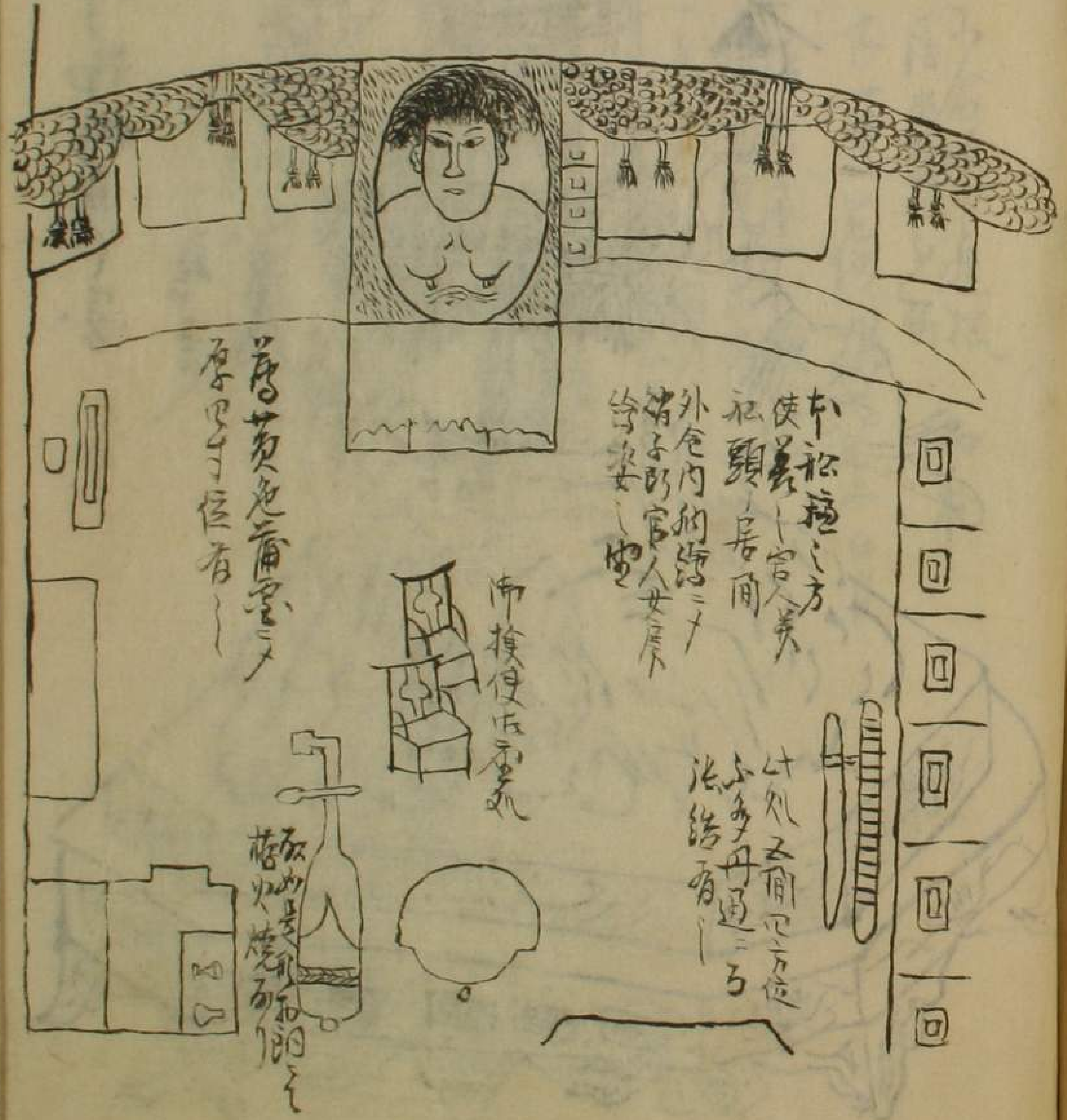
(甲比丹人余 位 二)

一 ヲロシヤ人之内 絵師二人 右之段々 清役人見合候所 小通詞 出役 相改候 書付 差出候事

右ニ者 書面ニ 者 清人通り 取計 絵師 者 不残 可申 由

大抵ニ 違 曲録 之 品々 懸 持 渡 之

ヲロシヤ
船中ノ図



献上象牙細工作り物時計之写

惣金ニて如形

クハケン時斗ニメ
一年ニ一度仕懸由

一 梅ヶ崎御検使（小倉源之進・清水藤十郎） 十一月廿一日 荷揚 御検 三日目

一 本船御検使一（清水藤十郎・行方覚右衛門）

一 梅ヶ崎日（一石田重郎・山田幸右衛門）

一 本船帆縄車其外其キヤ箱扣ホ

右同根ニ而モて

全新象牙細工しもの封有

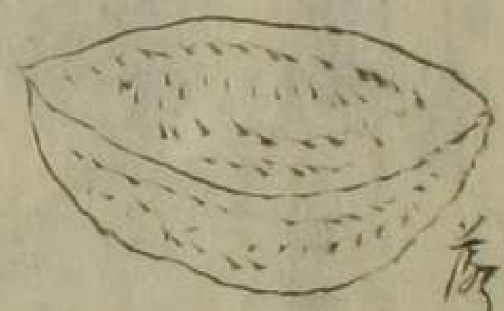
高サ八寸 横四寸程ニ而封

此所ニ通有し

三寸やく位

此盃瓶盃茶碗
四ツ位ツ二ツ三色又
極上の瓶也

此茶屋ニ寛和や参る長二百疋の床ニ飾り有し



此鉢玉子色し石又
蒔黄物有りの

端子ニして
吊し品
キヤミしの
皇有し

此度三寸

此品揃口へ火付く也

寸度五寸位

黒地の毛織あし敷也

此引手ニ付度五寸位
かいみ
渡布有し用ゆる分の

三尺三寸

四尺四寸

琴系枚多
紅色
板三枚有ニ

十一月廿三日荷揚　巳日目

一 本船御検使　小倉源之進様

一 松崎日　（行方）覚左衛門　福永吉郎右衛門

一 （砂糖数八段）薬种キツ八百尺矢箱木引揚

此内百尺矢

大八挺　長サ扇子大巳尺来　口日　ミ寸

中八挺　長サ内四尺　口九寸

小沙挺　長サ日沙尺来　口　五寸

十一月廿三日

一 前日取揚ル中ツ八蔵人二付役人九斗御役附（此処兵衛取分四位）衣装

日廿四日荷揚　五日目

一 本船御便使（上川傳右衛門 森山源五郎）　梅崎円（矢部弥三次 小山助左衛門）

船頭十之丞
一 キツハ 若物 花物 木小場

十一月廿五日荷揚　梅崎円（竹下覚左衛門 湯川善左衛門）　六日月

一 本船御検使（湯浅善左衛門 森山源五郎）

船頭六次
一 今和入キツハ 荒物 若物 木小場

廿二日 毎日無昼夜一件之節御月附 ...

御目附
遠山金四郎様

御目附
坂田五左衛門殿
高田豊右衛門殿
其外二人宛

御小人目付
近藤五郎兵衛
松井金之助
赤坂伝蔵
長谷川惣兵衛
其外三人宛

御用人
石川喜三郎殿
高橋勝之助殿

役人
志藤市助殿　与力
中山
田中英助殿　同心

（三宅伊兵衛殿 福山太郎右衛門殿）
（大原市助殿 内藤七郎兵衛殿）

御小人 三人　御用人 若者二人

日三月六日七日九日十日ニや人御役所へ出勤候

遠ケ御用人迄 高田平之助

中間
（高田周蔵殿 高野新太郎殿）
御供 山本五兵衛殿
御中間 十五人

一 立山御役所下役より処々辻番所 金庫改番請 迎し
大村与歩り役人有し 取役五個米秤中人給金

一 濱山町角葉 同心役 改書へ御上役 金庫改上役 二十人
役人見分改り 不時改 足軽中人 夕ツハ ブウサキ 無之 無之し

一 樺島町乙名ハ服紗ニ而右同断
一 五島町角ゟ唐物屋迄ハ右同断
一 本興善町角ゟ高木作右衛門屋敷迄右同断
一 本博多町角行屋ヘ右同断
一 大村町乙名ヘ　右同断
一 外浦町住屋本屋ヘ右同断
一 西役所役米差　辻番所大村町ゟ右同断
一 西役所役米乙名ゟ左右ニ大波戸迄弟子ニ整候
諸西長屋下ヘ表ニ而同し役家上段下段共弟子通
籠米ゟ諸会集し

一 右通り町々乙名詰所毎ニ会所町役人罷出候
一 オロシヤ人服紗御座船ヘ船上大波戸ゟ船行列
左之通出張西六ツ時御役所ゟ迎罷出
方日行列先達而大波戸会所迄罷出候
　之三役市中取締方勤番候
羽織袴服之　角当番人　服紗　服紗　服紗足軽二人
日 町役人　日 門番人　三人
押　服紗侍三人騎馬供廻り十人
　オロシヤ人ニ付後ニオロシヤ人織二外使節供又ハ役人御用掛
　日 當番与使節一人　十五人
　羽織袴 大小通詞
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　附添

三月十日彦根ゟ御渡り同十九日ゟ御籏家(?)座船へ
チロニヤ人前船ゟ乗移り上段白赤之幕下緑赤
中白之幕内張左右提灯弐人幕船下籏弐り
右之武具飾り無之

一籏家ゟ挨船共前船ニ二ゟ付東表ゟ挨拶
一籏家之老臣是田安乃出所座船波幕六八番白
鯉之斜見無之吹貫〆桜紋染之外籏紋施お
飾り御座所之間船右之外同様之船二艘相添之
一右之者ゟ荷物届之迄
右御請申上候　但七拾九五拾　天文元年申正月

御請申上候　　　だんちゃり
合符生家路部　羽前陸奥
羽前陸奥并荷物届
三月五日

右之外長崎ゟ荷物を立之候

此時御奉行
肥田豊後守
成瀬因幡守

御勘定方
村田伊兵衛
本因幸次郎

御普請役
辻民右衛門
福永六郎兵衛

終

一文政元寅年五月異国船浦賀へ来ル船様子
一 異国船長サ拾五間程横巾五間余見候様ニ白キ色
下地ニ而色塗帆柱三本帆柱高サ拾余間
数大小ニ而五反帆様ニ立候帆様ハ白布之様
ニ而之木綿帆柱高サ弐拾間と申候帆柱之
其外繋き縄数不知
ニ候と申候是を以見候ハヽ深サ又船の小船ニ下ル中七八間つゝ右様
船中ニ而色ぬりの小船三艘有之是様ニ有又食物ニ
帆さし五十丈歩拾足歩　五十足　鉄ニ而羽根
是ハ又船ニ水を取見へ相成人兵器帽子を冠り

又来候ニ付舶者ハ白毛を冠り　又其者ハ
黄色白色黒色之まだらを着し其ハ萌黄色白色の
股引をはき一体身ハ大ニ肥人物ニ相見へ候髪毛
黄ク御座候船之様一体ハ見事ニ麁末ニ相見候ニ中央
様子ニ相見て擢南蛮渡之通金之ニ云鉄銅ニ而
是ハ刃物を持居候十挺大筒弐挺擢ニ本帆
是ハ兼而浦賀御奉行所へ御届上ケ候又船之様子
ニ而下ニ而御見ニ不申候ニ云又船ニ而窓不戸相々様子物有
是ハ十間位之御見ニ候由ニ又乗組之者船中ニ在之候と
上ケ水中ニ入候ニ八丈余も沈候而浮上り候ニ云 干時

相手肥後守　相手越中守用船千弐近候被
船九拾百艘余ニ而舞中山別ハ五月十四日御覧
帰帆之節ハ夫々手船致候

ケレ氏

此本文政二卯年八月江戸御出役
飯田庫之助様御用人内山峯蔵
殿長崎御勤中写来ニ全本
又私写之